

スポーツマンの性格特性

滝山 将剛 笠井 達哉

CHARACTERISTIC TRAITS OF SPORTSMAN

Yukitaka TAKIYAMA, Tatsuya KASAI

The purpose of this study is qualities of sportsman, and to investigate the different character between general students and sportsmen.

The subjects were 88 general male students and 441 male sportsmen, and 20 general female students and 22 female sportsmen(from 18 to 22 years old). Their characteristic traits were tested by the characteristic inspection(Y-G characteristic test; Y-G Test) at February in 1980. Sportsclubs investigated by Y-G Test were: male-kendo N=29, Judo N=41, Wrestling N=48, Basketball N=30, Volleyball N=23, Handball N=27, Rugby N=53, Athletic sports; long distance N=36, short distance N=11, throwing N=14, jumping N=15, Gymnastics N=27 and general students N=88, female-sportsman N=22, general students N=20.

The marks obtained were statistically dealt with and results of investigation were summarized as follows;

1. Sportsman of ball games(particular Handball and Rugby) did not show the tendency of characteristic traits of sportsman. This tendency was different from the previous reports.
2. On the contrary, the sportsman of kakugi(fighting sports) has shown the characteristic traits of sportsman, especially kendo.
3. In females, by comparison between sportsman and general students the rhythmic tendency was recognized. It is assumed that this tendency was effected by sports activities.
4. The sexual difference was remarkably recognized at sportsman, especially in females. The marks obtained of two characteristic scales(the general activity and the social extraversion) were outstandingly.

I. はじめに

運動選手に特有な性格特性を“スポーツマン的
性格”(注1)と定義しその特性を把握しようとする

努力は以前から続けられてきた<sup>1)~4), 9)~13), 15)~16),
19)~23), 25)~30), 32)~33)</sup>。しかし、性格という人間の
情意的側面は、その複雑性により今だ明確な形で

理解するに到っていない。特に、その変容過程（ある種の環境による影響と本来その人が遺伝的に受けついでいると思われる気質的側面において）についてはどちらが原因でどちらが結果であるかを正確に把握することは困難な場合が多い^{5)~8), 14), 31), 34)}。しかし、一般的にはスポーツマンの性格といわれる性格特性が、社会的適応および社会的評価において、より望ましい性格像であるとされている¹⁸⁾。そこには、スポーツという身体運動を介して性格形成の過程における何らかの望ましい働きかけが存在した結果であると考えことはあながち標はずれではないと思われる^{5)~8)}。

ところで、従来行われてきた運動種目およびスポーツマンの性格特性に関する調査研究において、その目的とするところはどこにあったのであろうか。1つにはチームの特性を知るためにはそのチームを構成する成員個々の性格特徴を知ることが必要であるという点、2つには選手の選抜を行う上での参考にするという点、3つには選手の指導においてその効果的助言や仕方・方法・コンディショニングに関する手がかりを得ようとする点、4つには試合場面での作戦に利用しようとする点、などである。これらは主に実践場面での活用とその目的があったように思われる^{17), 27), 35), 36), 38), 39)}。しかし、運動種目別およびスポーツマンの性格検査から“性格”の理解に関し大きく二つの側面にアプローチできる。つまり、1つは、先述の通り実践場面に応用しようとする意図から行われるそのスポーツ集団内の個々人の性格特性の実態を把握しようとするやり方である。もう1つは、性格（スポーツマン）の形成過程における運動種目の影響をみるというやり方、つまり、身体運動を行うことがより望ましい性格形成にいかに関与しうるかを究明しようとするやり方である。

本報告は、後者についてより詳細な理解を得る一段階として、まず本校の運動部所属の学生および運動部に所属していない学生（一般学生）を対象に性格検査を実施した。その結果から、スポーツマンの性格の実態を把握することを目的とした。

II. 方 法

対象とした被験者は、本校運動部所属の男子学生441名（ラグビー部員53名、柔道部員41名、器械体操部員27名、剣道部員29名、バレーボール部員23名、バスケットボール部員30名、レスリング部員48名、ハンドボール部員27名、陸上競技短距離部員11名、陸上競技長距離部員36名、陸上投競技部員14名、陸上跳躍競技部員15名）と、一般学生88名、および女子学生42名（一般学生20名、運動部所属学生22名）であった。これらの学生にY G性格検査を実施した。

性格検査としてY G性格検査を採用した理由は、①比較的統一された資料が多く集められること、②資料の収集にあたって時間や経費が経済的・能率的であること、③応答が反射的になされないで、比較的反省する余裕があることなどを考慮した結果である。また、Y G性格検査は、自己診断法のインベントリーによって、性格特性のうち比較的变化しにくいと思われる気質的特性を主として測定する尺度であり、興味・欲求・態度などの力動的特性をみようとするものではない³⁷⁾などの点からこの検査法を採用した。

Y G性格検査は表1に示したように、12の性格

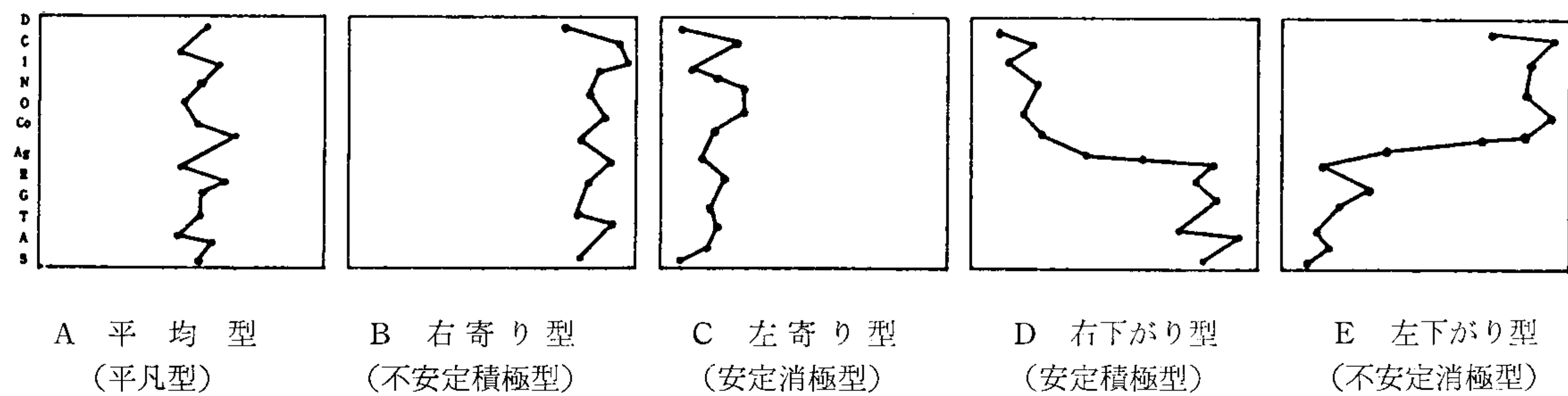
表-1 Y G性格検査で調べられる性格特性

	性 格 尺 度	性格特性の説明
D	depression	抑うつ性
C	cyclic tendency	回帰性傾向
I	inferiority feelings	劣等感
N	nervousness	神経質
O	lack of objectivity	客観性がないこと
Co	lack of cooperativeness	協調性のないこと
Ag	lack of agreeableness and aggressiveness	愛想のないこと
G	general activity	一般的活動性
R	rhathymia	のんきさ
T	thinking extraversion	思考的外向
A	ascendance	支配性
S	social extraversion	社会的外向

※ 辻岡美延；Y G性格検査実施手引より引用

表-2 YG性格検査プロフィールの類型

タイプ	尺 度	情 緒 安 定 性				社 会 適 応 性			向 性 (衝動性・活動性・) 主導性				
		D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
(A) 平 均 型		平			均	平		均	平			均	
(B) 右 寄 り 型		不	安		定	不	適	応	外			向	
(C) 左 寄 り 型		安			定	適		応	内			向	
(D) 右 下 が り 型		安			定	適	応	又	外			向	
(E) 左 下 が り 型		不	安		定	不	適	応	内			向	



※ 辻岡美延；YG性格検査実施手引より引用

特性を0～20点の各得点により全体的なプロフィール（表2）を画き性格類型を決めることができるようになっている³⁷⁾。

昭和55年2月～3月にかけて各運動部ごとにまとまって一斉にYG検査を実施した。こうして得られた各性格尺度得点をもとに各個人の性格プロフィールを作成した。また、各運動部員ごとおよび一般学生ごとに各性格尺度ごとの平均値と標準偏差を求め統計的処理を行った。女子学生については、性格検査を実施した人数が少ない関係上、一般学生群と運動部員群の二つに分類し同様の処理をした。

Ⅲ. 結 果 と 考 察

表3は男子の各運動部別および一般学生、女子の一般学生と運動部別にYG性格検査の各性格尺度ごとの平均値と標準偏差を示したものである。また、表4は表2の判定基準をもとに、A、B、C、D、Eの各性格プロフィールごとに分布する性格類型の人数とそのパーセンテージを示したものである。これらの結果から以下の観点について

考察した。

1. 一般学生と運動部員との比較

1) 男子について

図1は、一般学生と運動部員の各性格尺度における平均値と標準偏差をプロットものである。これより、I、Co、T、Sの各尺度において有意な差(I; $t=2.088$, $P<0.05$, $df=527$, Co; $t=3.342$, $P<0.001$, $df=527$, T; $t=2.550$, $P<0.05$, $df=527$, S; $t=6.555$, $P<0.00$, $df=527$)が認められた。このことから、一般学生は運動部員に比べて思考的外向性をもつが協調性において運動部員に劣っていることが示唆される。これに反し運動部員は一般学生に比べて劣等意識が強く社会的外向性に劣ることは今までの報告にはない結果であった。

それでは、運動部員を各運動種目別に一般学生と対比させてみたらどうであろうか。この方法により各運動種目別の特性が把握できるものと考えられる。図2、3、4はこの意図のもとに各性格尺度の平均値を一般学生のそれと対比する形でプロットしたものである（図が不明瞭になる点を考

表-3 Y G 性格検査における各性格尺度ごとの平均値と標準偏差 ※ M ± S. D ; 平均 ± 標準偏差

運動種目	性格尺度										R	T	A	S
	M	± S. D	D	C	I	N	O	Co	Ag	G				
男	一般学生 (N= 88)		8.5 ± 5.6	9.8 ± 4.7	7.3 ± 5.0	8.1 ± 5.1	8.5 ± 4.1	7.5 ± 3.9	11.7 ± 4.1	11.7 ± 4.1	12.8 ± 4.3	11.3 ± 4.5	10.9 ± 4.4	14.5 ± 4.6
	剣道 (N= 29)	"	6.6 ± 4.7	7.8 ± 4.5	4.9 ± 3.7	6.0 ± 4.1	6.7 ± 4.2	7.1 ± 3.6	11.4 ± 4.3	12.6 ± 4.4	12.2 ± 4.6	11.2 ± 4.1	11.5 ± 5.1	12.9 ± 4.9
	柔道 (N= 41)	"	7.9 ± 5.5	9.5 ± 4.2	6.9 ± 4.6	7.5 ± 5.1	7.8 ± 4.3	7.8 ± 3.8	11.9 ± 3.4	11.9 ± 3.6	12.2 ± 3.7	11.0 ± 4.4	9.4 ± 3.6	12.9 ± 3.6
	レスリング (N= 48)	"	8.4 ± 6.3	9.3 ± 4.8	7.7 ± 4.9	8.9 ± 4.5	8.4 ± 4.4	8.1 ± 4.6	11.1 ± 4.0	12.3 ± 4.8	11.6 ± 3.7	12.1 ± 3.8	11.0 ± 4.6	13.8 ± 4.2
	バスケット (N= 30)	"	8.2 ± 5.5	8.8 ± 4.0	6.4 ± 4.3	7.8 ± 4.4	7.2 ± 4.0	7.5 ± 3.3	10.8 ± 3.1	12.7 ± 4.7	13.0 ± 4.3	12.0 ± 4.3	9.1 ± 4.7	12.5 ± 4.2
	バレーボール (N= 23)	"	10.0 ± 6.0	10.1 ± 5.4	8.0 ± 4.7	9.5 ± 5.5	8.6 ± 4.6	8.1 ± 4.1	11.5 ± 4.7	11.8 ± 4.4	12.0 ± 3.3	9.3 ± 4.1	10.6 ± 5.0	13.2 ± 4.4
	ハンドボール (N= 27)	"	12.4 ± 5.0	12.1 ± 3.9	9.9 ± 5.2	10.7 ± 4.8	9.1 ± 4.3	8.3 ± 5.3	11.7 ± 4.8	10.7 ± 4.7	14.1 ± 4.5	10.7 ± 5.5	9.0 ± 4.5	11.9 ± 5.2
	ラグビー (N= 53)	"	11.5 ± 4.8	11.7 ± 4.6	9.0 ± 4.4	9.9 ± 4.5	9.9 ± 4.0	9.6 ± 3.7	11.4 ± 3.9	10.9 ± 4.1	13.6 ± 3.9	9.8 ± 4.0	9.4 ± 4.1	12.7 ± 4.2
	陸上(長) (N= 36)	"	10.0 ± 6.1	10.2 ± 5.6	9.6 ± 5.4	10.1 ± 4.8	9.1 ± 4.5	9.3 ± 4.0	10.6 ± 4.0	11.4 ± 4.0	11.6 ± 2.8	9.9 ± 4.2	8.8 ± 3.9	11.1 ± 4.0
	陸上(投) (N= 14)	"	7.2 ± 5.1	10.6 ± 4.2	6.5 ± 3.5	8.8 ± 4.3	8.3 ± 3.7	6.5 ± 4.1	12.5 ± 2.5	12.9 ± 3.1	14.5 ± 3.1	11.5 ± 3.7	12.2 ± 4.9	13.8 ± 3.1
	陸上(短) (N= 11)	"	5.8 ± 4.4	10.1 ± 4.8	9.5 ± 3.7	10.2 ± 3.3	7.5 ± 4.8	8.8 ± 3.8	11.8 ± 2.8	12.0 ± 2.8	12.5 ± 3.7	9.9 ± 4.5	13.5 ± 3.6	15.0 ± 2.9
	陸上(跳) (N= 15)	"	9.9 ± 5.8	10.3 ± 5.0	8.3 ± 5.0	10.7 ± 4.7	9.9 ± 3.6	8.3 ± 4.8	12.4 ± 3.5	12.9 ± 5.1	12.4 ± 4.1	10.9 ± 4.8	10.1 ± 4.3	12.1 ± 5.2
	体操(器) (N= 27)	"	8.2 ± 5.6	9.1 ± 4.0	8.0 ± 4.4	8.3 ± 4.3	8.6 ± 4.2	8.5 ± 2.9	11.6 ± 3.9	12.6 ± 3.2	12.7 ± 3.9	9.7 ± 4.3	10.0 ± 3.9	12.5 ± 4.0
	運動部全体 (N=441)	"	8.8 ± 3.0	10.0 ± 4.2	7.9 ± 4.5	9.0 ± 4.4	8.4 ± 4.0	8.2 ± 3.9	11.6 ± 3.6	12.1 ± 4.2	12.7 ± 3.9	10.9 ± 3.8	10.4 ± 4.4	12.9 ± 4.0
女	一般学生 (N= 20)	"	10.8 ± 5.4	11.0 ± 4.6	8.6 ± 3.7	10.8 ± 4.0	9.3 ± 4.3	7.9 ± 3.8	11.2 ± 4.9	11.9 ± 4.0	11.7 ± 4.7	9.1 ± 3.9	12.3 ± 5.0	15.2 ± 4.4
	運動部 (N= 22)	"	9.4 ± 5.5	10.8 ± 3.8	7.8 ± 4.1	8.3 ± 3.9	8.0 ± 3.0	9.3 ± 3.4	14.0 ± 2.9	12.8 ± 3.5	15.1 ± 3.4	11.3 ± 4.4	11.2 ± 3.6	13.4 ± 5.5

表-4 YG性格検査におけるA, B, C, D, Eの性格プロフィールを示す人数とそのパーセンテージ

性格類型		A	B	C	D	E
運動種目						
男子	一般学生 (N=88)	42 (48%)	9 (10%)	2 (2%)	28 (32%)	7 (8%)
	剣道 (N=29)	15 (52%)	1 (3%)	1 (3%)	12 (42%)	0
	柔道 (N=41)	20 (49%)	0	0	16 (39%)	5 (12%)
	レスリング (N=48)	21 (44%)	3 (6%)	0	19 (40%)	5 (10%)
	バスケット (N=30)	17 (57%)	0	0	13 (43%)	0
	バレーボール (N=23)	9 (39%)	0	0	9 (39%)	5 (22%)
	ハンドボール (N=27)	17 (63%)	3 (11%)	0	3 (11%)	4 (15%)
	ラグビー (N=53)	30 (56%)	3 (6%)	0	12 (23%)	8 (15%)
	陸上 (長) (N=36)	16 (44%)	0	0	10 (28%)	10 (28%)
	陸上 (投) (N=14)	7 (50%)	0	0	7 (50%)	0
	陸上 (短) (N=11)	8 (73%)	0	0	3 (27%)	0
	陸上 (跳) (N=15)	9 (60%)	1 (7%)	0	4 (26%)	1 (7%)
	体操 (器) (N=27)	13 (48%)	2 (8%)	0	9 (33%)	3 (11%)
女子	一般学生 (N=20)	10 (50%)	2 (10%)	0	6 (30%)	2 (10%)
	運動部 (N=22)	8 (36%)	0	0	10 (46%)	4 (18%)

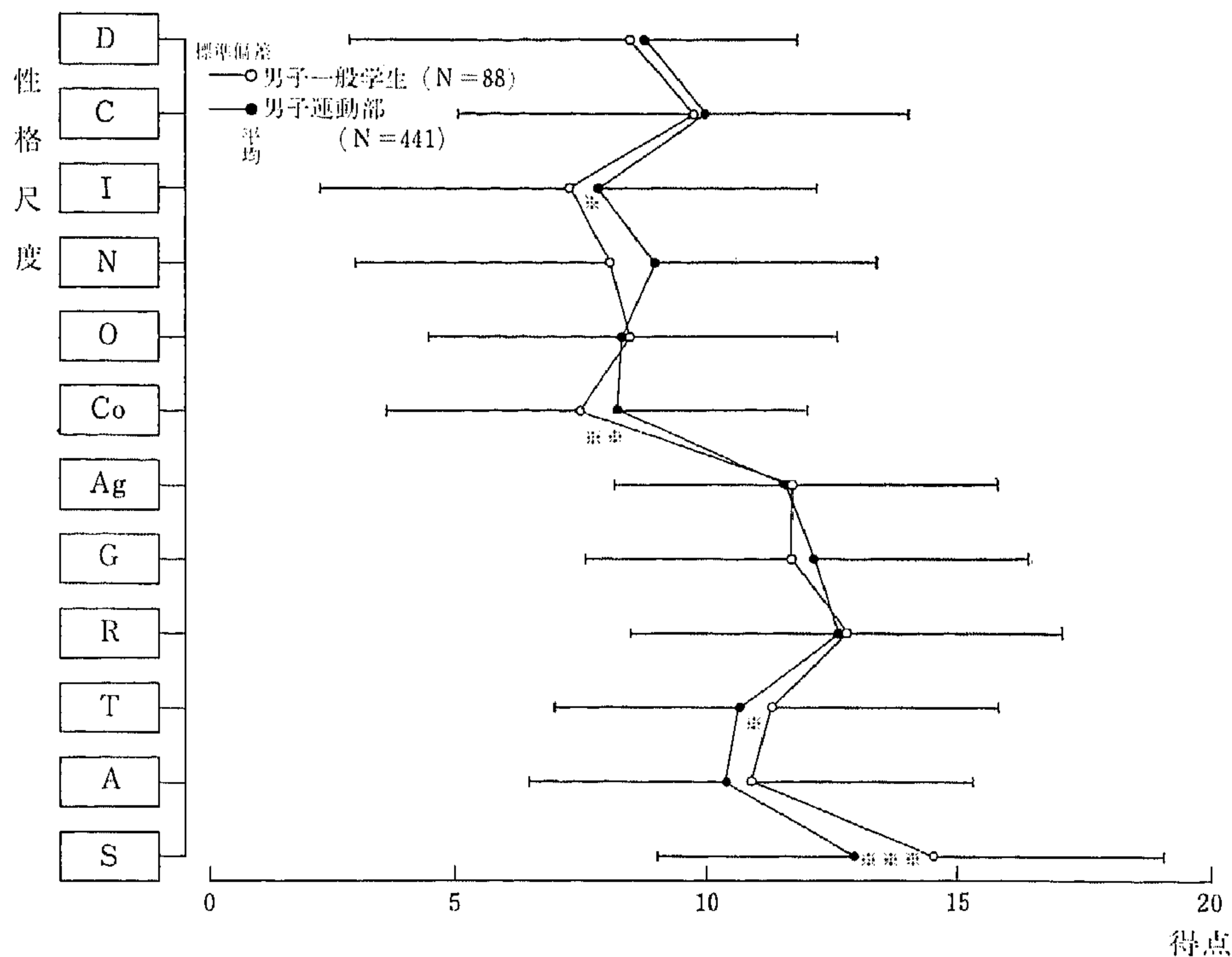


図-1 男子の一般学生と運動部員の各性格尺度における平均値の比較。*—5%, **—1%, ***—0.1%水準で平均値に有意差のあることを示す。以後の図は同様。

慮して標準偏差は示していない)。

図2は、一般学生と球技系の運動種目のものを同一スケール上にプロットしたものである。これより、D, C, I, N, O, Co, Sの各尺度において一般学生と球技系の運動部員との間に有意な差が認められることがわかる。まずD尺度においては、ハンドボールとラグビー部員に有意な差（ハンドボール部員； $t=3.215$, $P<0.01$, $df=113$, ラグビー部員； $t=3.223$, $P<0.01$, $df=139$ ）が認められた。C尺度においても同様にハンドボールとラグビー部員に有意な差（ハンドボール部； $t=2.220$, $P<0.05$, $df=113$, ラグビー部員； $t=2.327$, $P<0.05$, $df=139$ ）が認められた。I尺度においてもハンドボールとラグビー部員に有意な差（ハンドボール部員； $t=2.321$, $P<0.05$, $df=113$, ラグビー部員； $t=2.321$, $P<0.05$, $df=139$ ）が認められた。N尺度においてはハンドボール部員にのみ有意な差（ $t=2.328$, $P<0.05$, $df=113$ ）が認められた。O, Co尺度においては、ラグビー部員にのみ有意な差（O； $t=1.968$, $P<$

0.05 , $df=139$, Co； $t=3.134$, $P<0.01$, $df=139$ ）が認められた。S尺度においてはハンドボール、ラグビー、バスケットボール部員に有意な差（ハンドボール部員； $t=2.467$, $P<0.05$, $df=113$, ラグビー部員； $t=2.308$, $P<0.05$, $df=119$, バスケットボール部員； $t=2.084$, $P<0.05$, $df=116$ ）が認められた。

以上の結果から、球技系運動部員、特にハンドボールとラグビー部員は、一般学生に比べて抑うつ的・感情的で劣等感が強く神経質的で客観性に欠けるといえた。しかし、協調性においては一般学生に比べてすぐれていた。また、全体的には球技系運動部員が一般学生に比べて社会的外向性に欠けるという予想外の結果を得た。

これらのことから、本学の球技系の運動クラブ員は、スポーツマン的性格といわれる従来報告されている性格特性とはかけ離れた性格特性を示した。このことは、本学の球技系の運動部が何らかの要因により外向的で積極的な性格を形成し得ない運動部員集団であることを示唆しており、今後

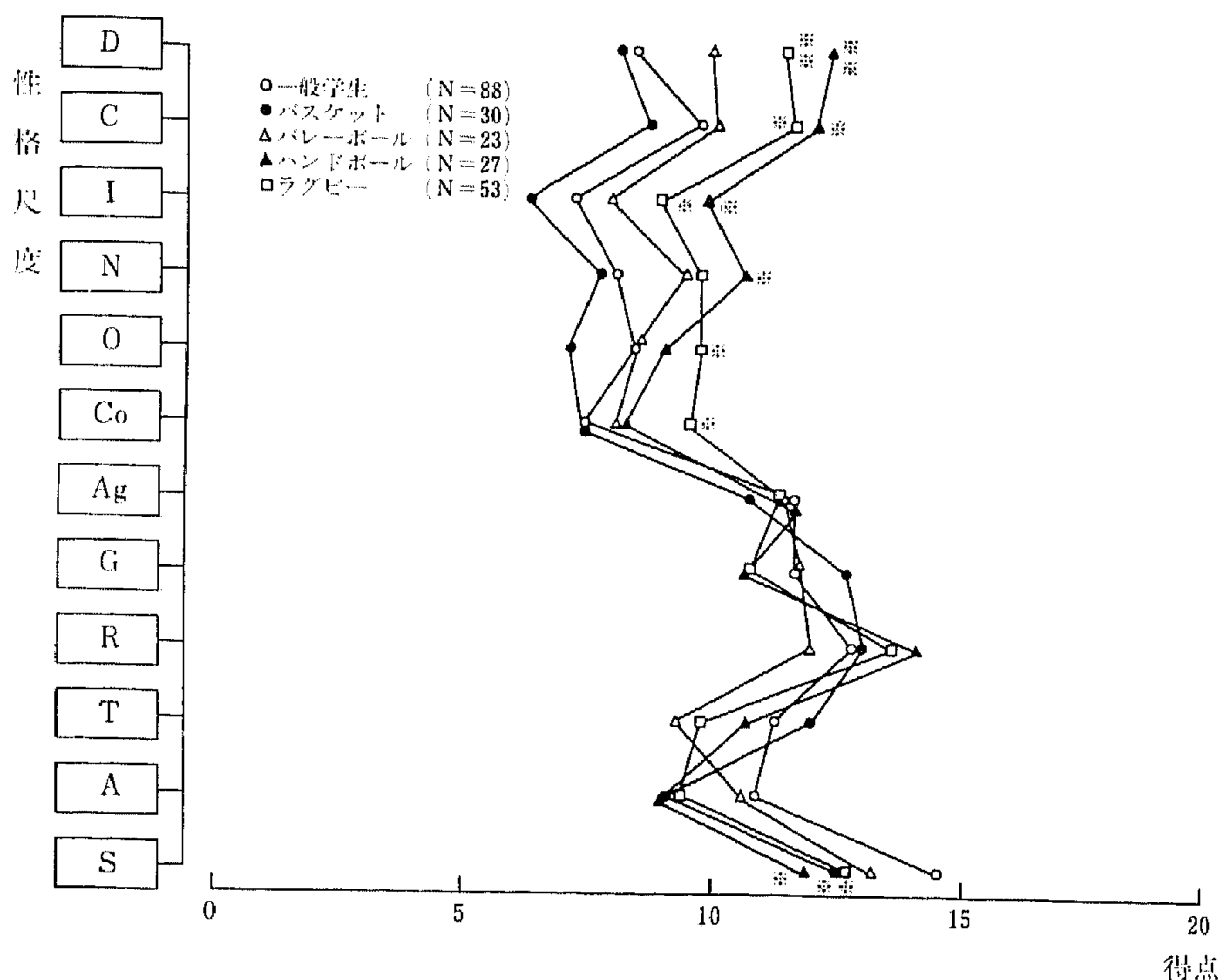


図-2 一般学生、バスケット、バレーボール、ハンドボール、ラグビー部員の各性格尺度における平均値の比較。

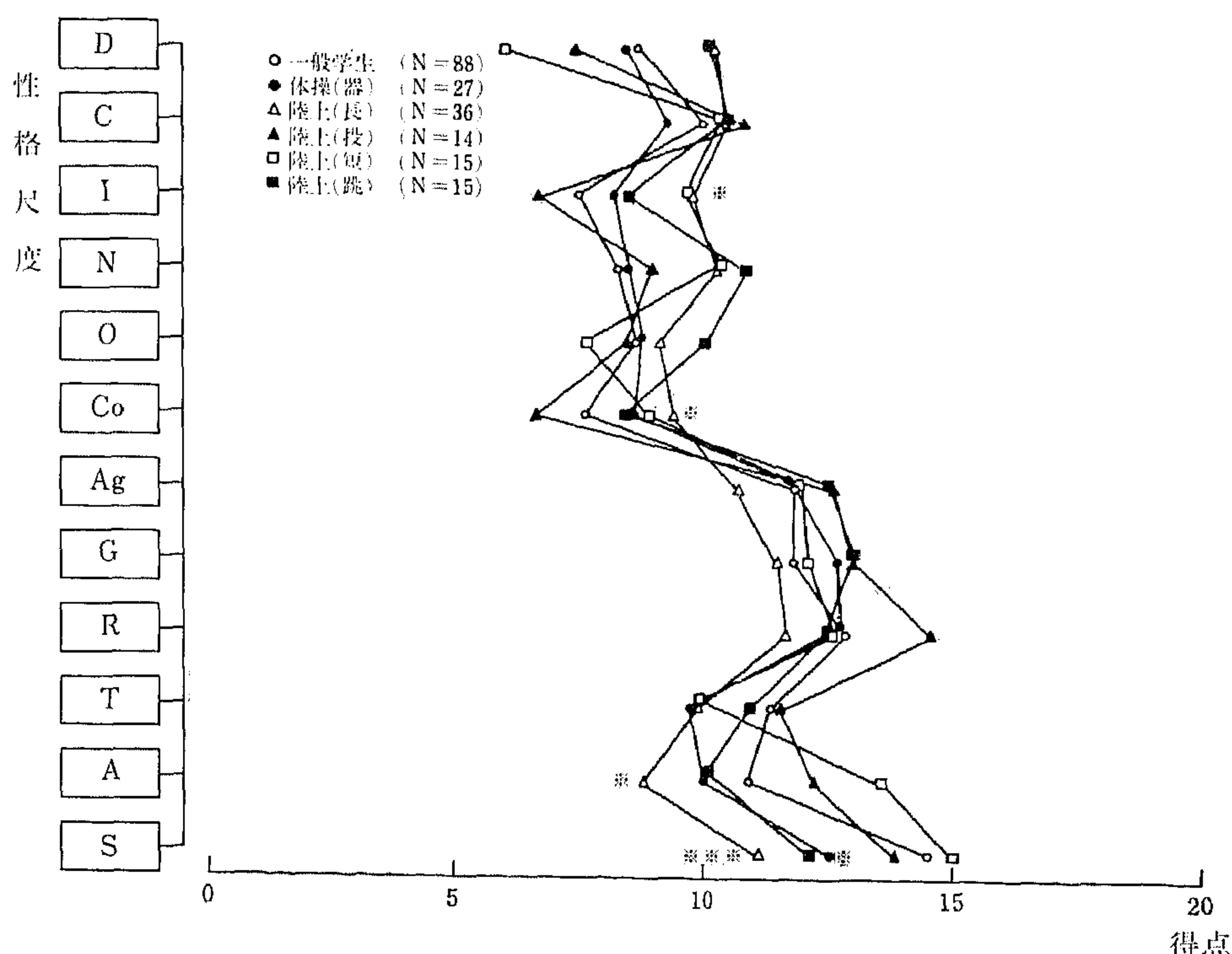


図-3 一般学生，体操，陸上長距離，短距離，跳躍，投てき競技部員の各性格尺度における平均値の比較。

の運動部のあり方に関し示唆の富んだ結果であると考えられる。

図3は，一般学生と個人競技種目について同一スケール上にプロットしたものである。これより，陸上長距離走部員において I, Co, A, S の各性格尺度において一般学生と有意な差 (I ; $t=2.252$, $P<0.05$, $df=122$, Co ; $t=2.210$, $P<0.05$, $df=122$, A ; $t=2.471$, $P<0.05$, $df=122$, S ; $t=3.844$, $P<0.001$, $df=122$) が認められた。また，S 尺度においては他に体操部員にも有意な差 ($t=2.018$, $P<0.05$, $df=113$) が認められた。

以上の結果から陸上競技のうち長距離走競技者において他の投てき・短距離・跳躍競技者とは違った性格特性があることが示唆される。それも，一般学生に比べて劣等意識が強く，支配性に欠け社会的内向性を示した。これは長距離走という競技特性からくる結果であるように思われる。

図4は，格技系の運動種目に一般学生の各性格

尺度の平均値をプロットしたものである。これより，剣道部員の I と O 尺度においてのみ一般学生との間に有意な差 (I ; $t=2.359$, $P<0.05$, $df=115$, O ; $t=2.020$, $P<0.05$, $df=115$) が認められた。このことから，剣道部員は劣等意識が少なく，客観性にすぐれており，いわゆる典型的なスポーツマン的性格を示していることがわかる。他の種目（柔道とレスリング）については，一般学生との間に各性格尺度において差は認められなかった。しかし，全体的に，一般学生に比べてスポーツマン的性格を示しているといえる。

2) 女子について

図5は女子の一般学生と運動部員の各性格尺度ごとの平均値をプロットしたものである。これより，R 尺度においてのみ両者に有意な差 ($t=2.723$, $P<0.01$, $df=40$) が認められた。このことから，女子においてはのんきさ，つまり人といっしょにはしゃぐ，いつも何か刺激を求めるなどの，気がるな，のんきな，衝動的な性格において

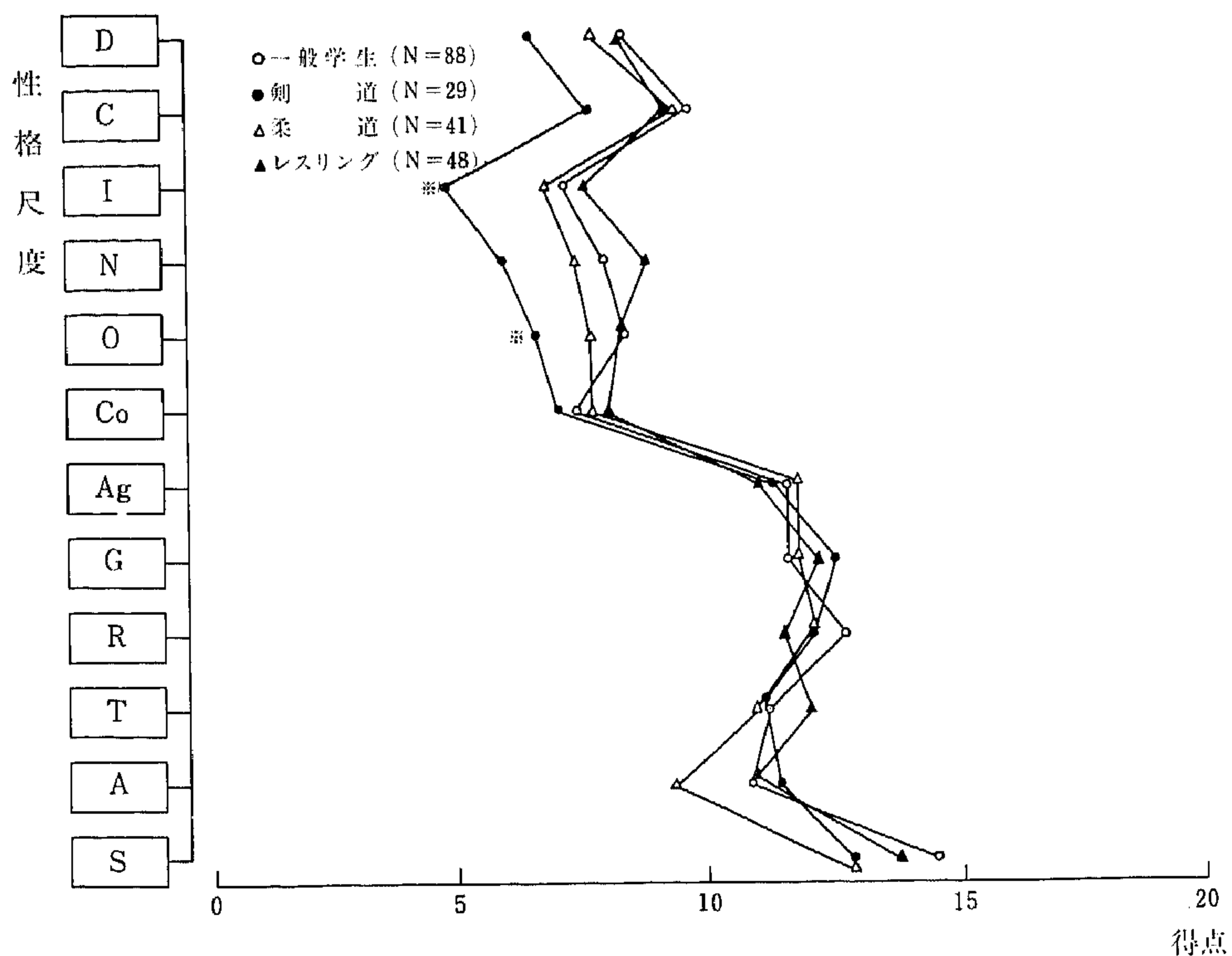


図-4 一般学生、剣道、柔道、レスリング部員の各性格尺度における平均値の比較。

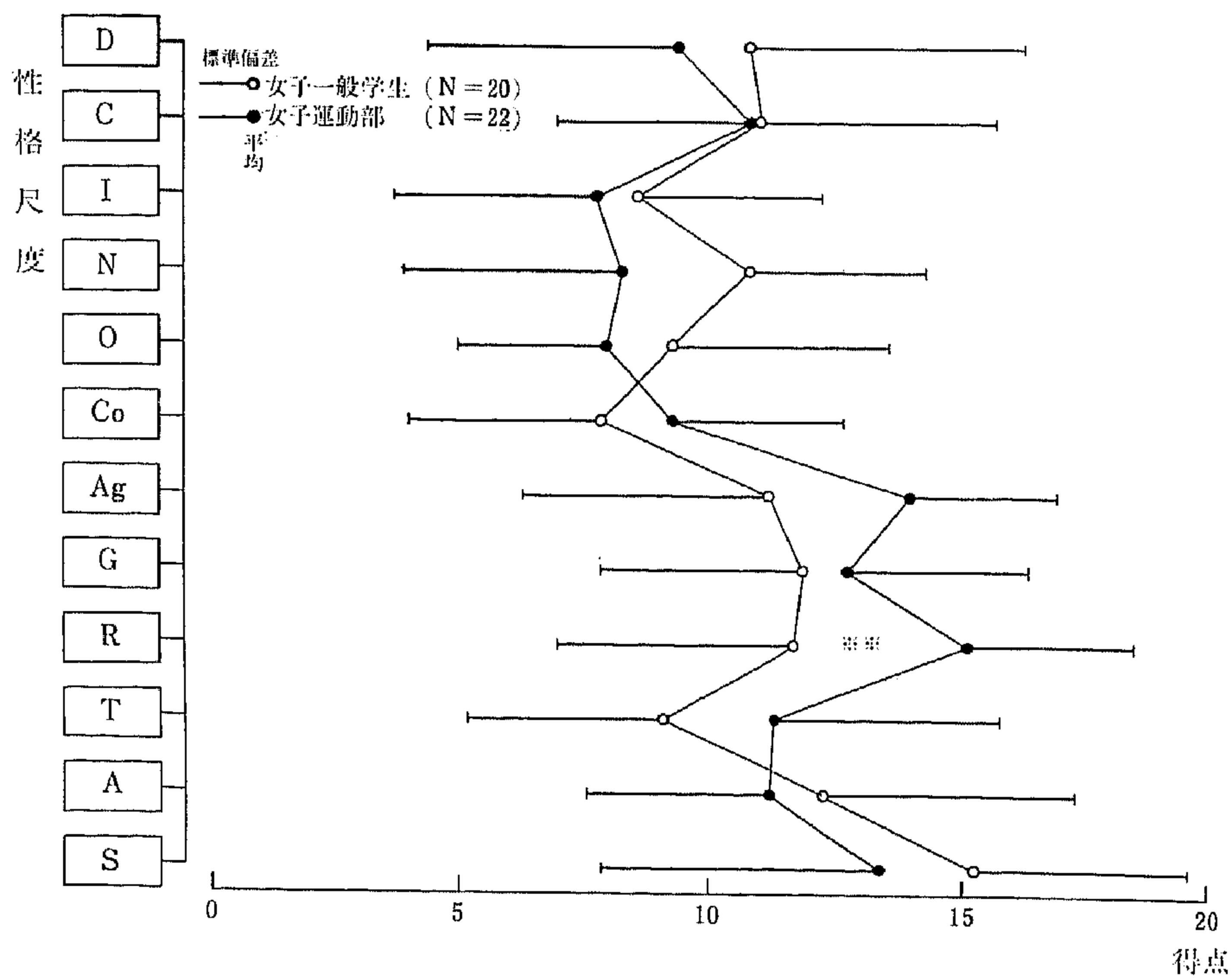


図-5 女子における一般学生と運動部員の各性格尺度の平均値の比較。

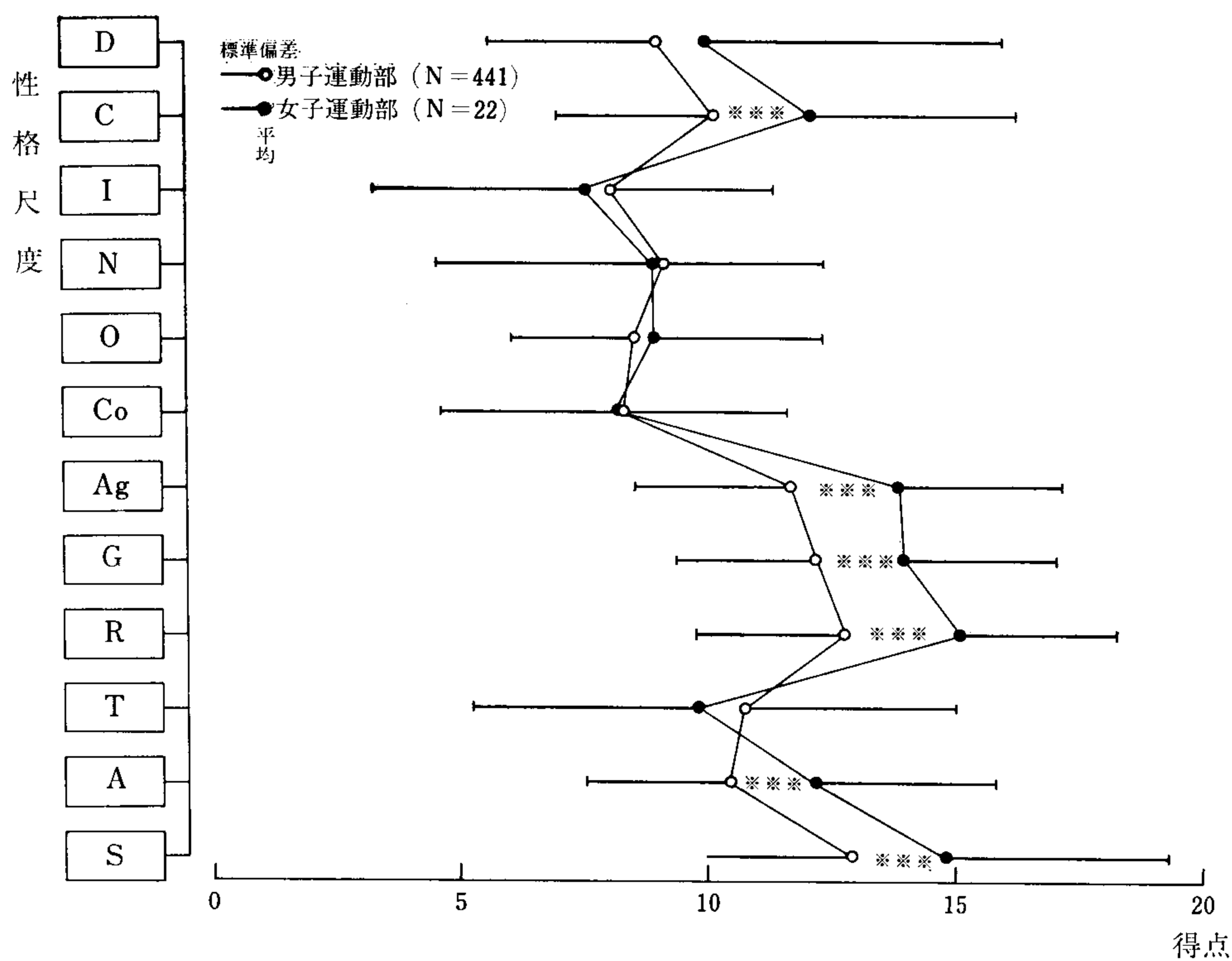


図-6 運動部員における男子と女子の各性格尺度の平均値の比較。

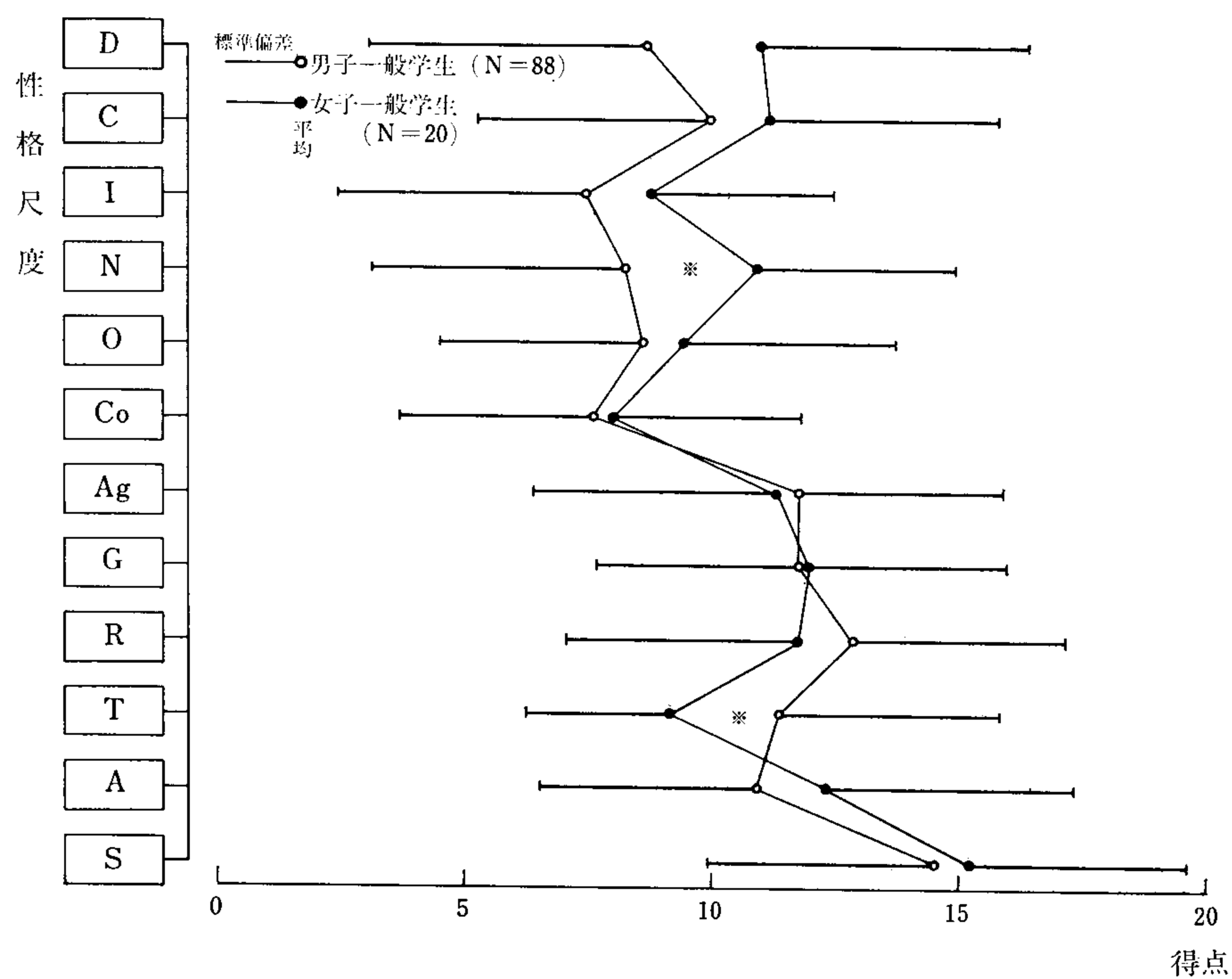


図-7 一般学生における男子と女子の各性格尺度の平均値の比較。

運動部員は一般学生に比べて高得点を示した。このことは、男子学生には認められなかった点であり、女性の特性を示唆しているものと思われる。

2. 性差の比較

前述の通り、性格特性において男女差が示唆されたのでこの点を明確にするために運動部員と一般学生において、男女の各性格尺度の平均値を対応させてプロットしたのが図6、7である。

1) 運動部員について

図6は、運動部員について各性格尺度ごとに対比してその平均値をプロットしたものである。これより、C, Ag, G, R, A, Sの各尺度において有意な差 (C ; $t=6.201$, $P<0.001$, $df=461$, Ag ; $t=10.834$, $P<0.001$, $df=461$, G ; $t=7.962$, $P<0.001$, $df=461$, R ; $t=9.892$, $P<0.001$, $df=461$, A ; $t=4.894$, $P<0.001$, $df=461$, S ; $t=6.272$, $P<0.001$, $df=461$) が認められた。

以上の結果から、運動部員の性差は、女性において男性に比べて感情的で支配性が強くのんきで社会的外向性に富むといえる。反面無愛想で活動的であることから、一般の女性像に比べて運動を行なっている女性の、男性的な性格を有するようになるという側面をうきぼりにしている。

2) 一般学生について

図7は、一般学生について各性格尺度ごとに対比してその平均値をプロットしたものである。これより、N, Tの各尺度において有意な差 (N ; $t=2.197$, $P<0.05$, $df=106$, T ; $t=2.002$, $P<0.05$, $df=106$) が認められた。

以上の結果から一般学生における性差は、女性において男性に比べてより神経質的な性格を示し、思考的には男性より外向的であるという、日常我々が持っている男性、女性に対するイメージを裏づける結果であった。

IV. 総 括

本校の男子一般学生(88名)と運動部員(441名)および女子一般学生(20名)と運動部員(22名)を対象にYG性格検査を実施し、それぞれの性格特性を検討した結果次のようなことが明らかになった。

- 1) 球技系の運動部(特に、ハンドボールとラグビー部において顕著)において、スポーツマン的性格は示さず、逆に抑うつ的で劣等感意識の高い情緒不安的な性格特性を示した。これらが何によるかは明確ではないが今後、これらの運動部において特に留意すべき問題点として示唆された。
- 2) 反面、格技系の運動部員においては、スポーツマン的性格特性を示した。特に剣道部においてこの傾向は顕著であった。
- 3) 女子においては、運動部員において一般学生に比べてのんきな傾向を示し、運動のもつ特異性が示唆された。
- 4) 性差については、一般学生に比べて、運動部員においてより顕著であった。それは一般学生においては一般的な男女に対するイメージ通りの結果であったのに対し、女性において運動による影響と考えられる活動的で外向的な傾向が強く示唆された。

終りに、調査に協力してくださった各運動部員の皆様に感謝します。

注

- (注1) スポーツマンは、明朗で些事にこだわらず、のんきで活動的であるが、あまり思考的でない。しかし、スポーツマン的性格という言葉のもつ意味は、スポーツマンに共通していると思われる性格のうち、理想的な性格を含む言葉として受けとめるべきであろう。(1968, 花田らによる)

引 用 文 献

- 1) 藤善尚憲・他：スポーツマン的性格について(1) 体育学研究 10(1) 217 1965
- 2) 藤善尚憲・他：スポーツマン的性格について 体育学研究 11(1) 9—16 1966
- 3) 花田敬一・他：運動選手の性格についての一考察(第1報) 体育学研究 2(7) 127 1957
- 4) 花田敬一：運動選手の性格特性についての一考察(第2報) —特にスポーツの類型による比較— 体育学研究 5(1) 83 1960
- 5) 花田敬一・他：運動部経験者の性格特性について

- の追跡的研究 体育学研究 7(1) 14 1962
- 6) 花田敬一：運動部経験者の性格特性についての追跡的研究 体育学研究 7(1) 431 1962
- 7) 花田敬一・他：矢田部・ギルフォード性格検査による運動部経験者の性格特性についての追跡的研究(第2報, 第3報) 体育学研究 10(1) 229—330 1965
- 8) 花田敬一・他：身体運動によって影響される性格特性の追跡的研究 体育学研究 9(4, 5) 83—90 1966
- 9) 市村操一・他：スポーツ選手と一般人の性格の類型的分析—因子分析技法による— 体育学研究10(1) 214 1965
- 10) 井上俊孝・他：スポーツマンのパーソナリティー特性について 体育学研究 10(1) 213 1965
- 11) 木村昭光：Personality と運動選択についての一考察(第1報) 体育学研究 2(7) 68 1957
- 12) 桐生良夫：スポーツ選手の性格に関する研究—柔道選手について— 体育学研究 8(1) 221 1963
- 13) 桐生良夫：スポーツ選手の性格に関する研究(Ⅱ)—リーダーについて— 体育学研究 9(1)
- 14) 小林晃夫：スポーツによる精神的変化 体育学研究 7(1) 431 1962
- 15) 小林晃夫：スポーツマンの性格 体育の科学 11(5) 226—229 1961
- 16) 近藤充夫：スポーツマンの性格特性 体育の科学 14(11) 631—633 1964
- 17) 小林 篤：スポーツ種目の好みとパーソナリティー適性についての研究 体育学研究 5(4) 116—123 1961
- 18) 木村好子・他：企業体の期待するスポーツマン像に関する調査研究 体育学研究 10(2) 90 1966
- 19) 松井三雄・他：スポーツ適性に関する研究—運動選手の性格特性— 体育学研究 9(1) 400 1964
- 20) 森脇 勤・他：Yatabe—Guilford (Y. G) 性格検査による一般学生及び運動部員の性格について(その1, その2) 体育学研究 7(1) 17—18 1962
- 21) 森脇 勤・Yatabe—Guilford 性格検査による本学一般学生及び運動選手の性格について(第1報) 体育学研究 8(1) 232 1963
- 22) 森脇 勤・他：Yatabe—Guilford 性格検査による本学一般学生及び運動選手の性格について(第2報) 体育学研究 9(1) 371 1964
- 23) 森脇 勤・他：Yatabe—Guilford 性格検査による27類型出現傾向よりみたスポーツ選手の性格Patternについて(第3報) 体育学研究 10(1) 240 1965
- 24) 森脇 勤：Yatabe—Guilford 性格検査による1964年 All Japan Inter High-School Athletic Meet の出場選手性格特性 体育学研究 10(2) 114 1966
- 25) 丹羽劭昭：大学運動競技選手の性格特性に関する研究 体育学研究 7(4) 21—37 1964
- 26) 野口義之・他：運動選手の性格特性についての研究 体育学研究 2(5) 227—233 1957
- 27) 太田哲男：スポーツにおけるパーソナリティーの問題 体育学研究 8(1) 407 1963
- 28) 末利 博：スポーツマンの性格特性に関する研究(第1報) 体育学研究 2(7) 128 1957
- 29) 末利 博：スポーツマンの性格特性に関する研究(第2報) 体育学研究 3(1) 109 1958
- 30) 末利 博：スポーツマンの性格特性に関する研究(第3報) 体育学研究 4(1) 162 1959
- 31) 末利 博：スポーツマンの性格特性に関する研究(第4報) 運動練習の維持と social stressor への適応 体育学研究 5(1) 52 1960
- 32) 杉本功介：スポーツマンの性格特性—矢田部・ギルフォード性格検査による研究 体育学研究 9(1) 435—436 1964
- 33) 武田 徹・他：運動選手の性格特性 体育学研究 7(1) 16 1962
- 34) 竹村 昭・他：運動部経験者の性格特性についての研究 体育学研究 8(1) 12 1962
- 35) 鷹野健次・他：高校運動選手の試合場面における適応について(1) 体育学研究 4(1) 161 1959
- 36) 鷹野健次・他：高校運動選手の試合場面の適応について(2) 体育学研究 5(1) 81 1960
- 37) 辻岡美延：Y G性格検査実施手引 日本・心理テスト研究所 1979
- 38) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性(第1報)—試合前後の変化について— 国士館大学体育学部紀要 vol. 5 31—37 1979
- 39) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性(第2報)—反応時間と性格特性との関係— 国士館大学体育学部紀要 vol. 6 15—22 1980

参 考 文 献

1. 花田敬一, 竹村昭, 藤善尚憲: スポーツマンの性格 不昧堂 1972
2. 長島貞夫: 性格心理学講座1 金子書房 1963
3. 宮城音弥: 心理学入門, 岩波新書 1971
4. 宮城音弥, 津島佑子: 何が性格を作るか 朝日出版社 1979
5. 宮城音弥: 性格, 岩波新書 1960
6. 辻岡美延: Y G 性格検査 実施・応用・研究手引 日本・心理テスト研究所 1960